

第6章 ネオシニアにやさしいまちづくりを

- 山の魅力をいかしたまちづくりと八王子の新たな定番 -

都市政策研究会議研究員 久 間 毅

はじめに

八王子は魅力の宝庫である。高尾山に象徴される「山」、浅川を代表とする「川」、そして宿場町として栄えた歴史ある「街（注1）」、それぞれが魅力に満ちあふれている。とりわけ、高尾山は、四季折々の美しい自然や、滝あり吊り橋ありの変化に富んだ7つのハイキングコース、バードウォッチング、山頂からの景観などを楽しみに年間約250万人が訪れる世界一の山である。

しかしながら、魅力が多くあるがゆえにその魅力が分散し、トータルにみると秀でて魅力的なまちとはいえない状況であることも否めない。三本の矢の比喻（たとえ）のように、山・川・街それぞれの魅力を束ねることにより、八王子のまちとしての魅力を相乗的に高め、その魅力をゆるぎないものとする必要があると考える。



一丁平（高尾山山頂より小仏城山方向へ東海自然歩道を徒歩で約40分）のサイン

ネオシニアの趣味のうち代表的なもののひとつといえば、登山をあげることができる。ネオシニアが山に魅せられるのはなぜだろう？登山の魅力を一言で語ることはできるものではないし、ひとそれぞれの楽しみ方があ

る。あえて、一般的で共通した魅力をあげるとするならば、自然を楽しみながら歩くことと、頂上での達成感であろう。

今回は、ネオシニアにやさしいまちづくりを考えるにあたり、登山からヒントを得て、山の魅力を街にも拡大することにより、自然と頂上を疑似体験できるまちづくりを考察する。

1. 自然と頂上を感じるまちづくり

キーワードは「トレッキング」。

トレッキング [trekking]

健康やレクリエーションのための山歩き、あるいはスキーの平地滑走。

ここでのトレッキングの定義は、「山歩き」に替えて「街歩き」を基本的な考え方とするが、サイクリングやジョギングのほか、ウィンドウショッピングなどを含めた広い意味で使うこととする。靴にたとえば、トレッキングシューズ（注2）にこだわる必要はなく、自転車・ランニングシューズ・パンプスのどれもが、八王子をトレッキングするためのツールにほかならない。

（1）トレッキングしたい街

街を山（アウトドアフィールド）に見立て、アウトドア基調のアクティブな都市景観を創造していくことを提案する。

都市間競争の高まりのなか、選ばれるまちとしての独自性が求められている。これまでの多摩地区におけるまちづくりの手法は、（あえて悪く言うならば）似たり寄ったりの施策の積み上げのうえに成り立っているため、まもなく市制90周年を迎える八王子の中心市街地を、立川や町田のそれと見比べてもさほど違いはない。しかしながら、駅前デッキの造形の差であったり、集客力のある店舗の有

無などにより、八王子がやや劣勢であることは公然たる事実となっている。このままでは、水をあけられるばかりだ。山の魅力を街に注入することにより、他市との差別化を図りたい。

中心市街地においては、目の前に山がある高尾駅や高尾山口駅とは異なり、自然を演出する必要がある。しかし、丸井の跡を森にしたり、山を切り取って裁判所に持ってくることは、たとえとしても強引すぎる。もちろん、まちなみの美しさや憩い空間の整備が市民の声として聞かれるなか、街路樹や花壇の設置は現在でも進められているが、アウトドア基調の都市景観とするためのひとつの手法として、杉材を使ったサイン・ベンチ・ガードレールなど（後述「2．八王子シダーを新たな定番に」参照）木製のストリートファニチャーの設置により山の雰囲気を取り込むことを取り上げたい。自然の要素を都市空間に取り込むことにより、山を身近に感じることができるようになる。つまり、山を歩いているかのように、街を歩くことができるようになる。ネオシニアを中心として年齢を問わず誰もが歩きたいと感じるまちづくりを進めることにより、中心市街地の活性化を図ることがここでの目標となる。

長野県では、平成 15 年度に「信州型木製ガードレール開発事業（注 3）」を実施し、県産間伐材を使った 3 タイプの木製ガードレールを開発している。現在、県が管理又は設置する道路に積極的に利活用が進められている。



木製ガードレール設置例 1
＜軽井沢町 中軽井沢＞



木製ガードレール設置例 2
＜下諏訪町 八島高原駐車場＞

また、国土交通省においても景観形成事業推進として、間伐材を利用した「信州型木製ガードレール」の整備など、周辺の自然景観と調和した木製ガードレールの整備を推進している。

（2）街のトレール

トレッキングするためには、トレール（トレッキングコース）が必要となる。

現在各所管で行われている、また、今後計画されている事業のなかに、トレッキングにふさわしコースが数多くある。そのうち主なものを整理すると次のとおりである。

- 湧水を訪ねて
都市景観セミナーとして 14 年度から行われている人気のコース（都市計画室）
- 観光マップ
駅からできるハイキングコース・史跡を巡るコース・季節ごとに花を巡るコースなどを検討中（観光課）
- 個店グループ
差別化を図った魅力ある店舗をネットワーク化（産業政策課）
- 散策マップの作成
高尾駅周辺地区の散策ルートの整備に併せて 20 年度作成予定（都市計画室）
- 文化財散策コース
指定文化財等を見学する歴史散歩コース
15 年度整備 千人同心夢ウォーク JR 八王子～陵南会館 約 8 k m（文化財課）
- ヘルシーウォーキング
小宮公園、清水公園などを周る 11.6 k m（スポーツ振興課）

どのコースも八王子の歴史・文化・自然が体験できる良い素材ばかりで、達成感が感じられそうである。これら個別となっている事業を、街のトレールとして括り、広く発信していくことが重要であると考え。また、中心市街地のトレールとしては、個店グループのネットワーク化の延長線上に位置づけることができるが、点である店舗を線で結びつけたショッピングトレールやグルメトレールなど、世代やニーズに合わせた多様なコースを用意したい。総括した街のトレッキングマップの作成を併せて提案する。

(3) 街の頂上

JR 八王子駅北口の駅前通り（桑並木通り）を北へ進むと、徒歩でも 10 分程で、浅川に架かる浅川大橋にクロスする。街と川との接点である。浅川大橋～暁橋、もしくは、浅川大橋～大和田橋の浅川右岸の河川敷を中心市街地の頂上となる公園（トレッキングパーク）として整備することを提案する。

街と公園の組み合わせは、魅力的である。相乗効果で活性化する。原宿の代々木公園、吉祥寺の井の頭公園、立川の昭和記念公園など次々と思いつくことができる。また、河川敷の公園との組み合わせも多い。聖蹟桜ヶ丘のノ宮公園や二子玉川の二子玉川緑地などが、その代表である。

では、下流域である二子玉川や中流域の聖蹟桜ヶ丘と異なり、上流域（急河川）と位置付けられる浅川大橋を、実際にどのような公園にすべきか？

その見本は身近にある。市役所前の浅川河川敷広場がそれである。十分にイベントはできるし、リラックスできる。そして、ここにも山の雰囲気を取り込むためと、夏の日差しを和らげるために、高木を配置したい。欲を言えば、川べりにおしゃれなオープンカフェでもあれば十二分である。

河川敷へのカフェの設置については、河川法等の高いハードルが予想できる。「海の家」は良く知られているが、「川の家」はあまり聞かない。「川の家特区」はいかがであろうか？実現のあかつきには、市内の魅力あるお店に出店を依頼したい。例えば、おいしいソーセージやワインと浅川の自然をコラボレートさ

せたら、街からも足を延ばしたくたくなるだろう。長い行列ができそうだ。

トレッキングパークの活用としては、環境フェスティバルなどの公共的イベントの開催のほか、フリーマーケットや町会・商店会・NPO などの公益的行事にも利用価値は高いと思われる。また、空前のペットブームの今、ドッグラン（注 4）の整備なども検討したい。



市役所前の浅川河川敷広場



街歩きに少し疲れたら、川べりのオープンカフェでひと休み（イメージ）。高尾の山に沈む夕陽も楽しめそう。

昭和記念公園のドッグランは、利用者から大好評を得ている。18年春には、拡張予定。



オープンカフェとドッグランの整備例

2. 八王子シダーを新たな定番に

杉（八王子シダー）をフューチャーする。

シダー [cedar]

西洋杉・ヒマラヤスギ属の樹木の総称。

八王子市の面積は 186.31 k m²であるが、その 42% が森林であり、その多くが杉を主とした人工林（注 5）である。

しかしながら、杉は杉花粉と価格低迷の問題により、ここ数年来、邪魔者扱いとなっている。夏の日照時間が長く、気温が高い方が、春に飛ぶ杉花粉の量は多くなるため、この春の杉花粉症は猛威をふるうと予想されている。また、C. W. ニコル氏によると、長野県の例では、樹齢 30 年の杉がダイコン一本より安い値で取引されているとのことである。

八王子市においても、林業の衰退により山間部の森林の荒廃が進み、保全と活用による森林再生が課題となっているのが現状である。そのため、あえて杉を八王子の新たな定番とし、「八王子シダー」と銘打つことにより、いちよう（市の木）や桑と同様に活用を図っていききたい。

（１）間伐材の利用

定番としての杉の活用については、八王子シダー材による木工工芸品の特産化やブランド化など、新たな地場産業を育成するまでには時間が必要であると考えられるため、まずは、八王子シダーの間伐材を使ったサイン・ベンチ・ガードレールなどによりまちを演出するなど、都市景観づくりに役立てると同時に、間伐材の積極的な利用により、森林の保全にも繋げていきたい。

サインの例として、日の出町のハイキングコースに設置されている町営「つつる温泉」の案内看板を紹介する。大きい文字部分はアクリル象眼（はめ込み）で詳細部分はシルク印刷されており、3 枚の木の表情をそのまま生かせるデザインとなっている。付け加えると、この看板は八王子市内の会社によって製作されたものである。



つつる温泉の案内看板



1800 x 300 x 25 杉材加工風景

（２）杉の葉茶

このほか、杉まんじゅうや杉だんごには、少し無理があるものの、杉の葉茶は研究に値しそうである。すでに数種類が商品化されているが、その特徴をまとめてみると、昔から杉の葉は健康茶として愛飲されている地域もあるうえ、現在では、花粉症対策としても効果があると言われている。また、中国の古い医学書にも杉が登場し、鼻炎や気管支炎の治療に使用されていたとのことであり、最近では、杉の葉には「テレピン油」が含まれており、杉の抗原を体内に取り込むことで反応を抑制するのではないかと考えられているという。

八王子特産「八王子シダー葉茶」は定番になりえるかもしれない。

3. もうひとつの定番

最後に、2004 年発売のトレッキングシューズを紹介する。それは、ナイキ社が「高尾山専用」として売り出した軽量トレールウォーキングシューズ、その名も「ナイキ タカオ」である。トレールでのハードな使用に耐えうる素材をアッパーに採用し、トレールラン、ライトハイキングにも使用可能なアウトドアライフ用ベーシックシューズとなっている。ナイキ・ジャパンに問い合わせたところ、売り上げも良好だという。全国のナイキストアや専門店のほか、海外でも販売（海外では“Takao Hiker”）されている。



Nike® Takao Hiker

A great lightweight hiking shoe for those rocky trails. Lightweight polyurethane coated leather and textile upper with nylon webbing. Synthetic lining. Phylon midsole for cushioning. Internal shank for stability on uneven terrain. Padded collar and cushioned insole. Durable rubber sole.

これが、今後も定番商品となるかは、売れ行きやナイキ社の方針によるところであろうが、国境を越えて「タカオ」という名の靴が履かれていることを、八王子のもうひとつの定番と位置付け、ナイキ社との提携によるイベントの開催など、新たな資源としての活用を図っていきたい。

おわりに

少し昔の八王子を想像してみた。まだ杉の植林が行われていない父なる高尾の山々には、雑木が四季折々に美しい姿を表し、その山々から湧き出した泉は、沢となり川となり母なる浅川に流れ込んでいる。川には幾つもの集落があり、市と宿場でその中心となる街は賑わっている。当然に、山と川と街は結びついていた。

今まさに、まちづくり交付金（注6）の採択を受け、八王子のまちのリニューアルが始まろうとしている。都市再生・森林再生ともに課題は山積している。今回示した提案のいくつかについて、その事業の一策として実現されることを、次世代に引き継がれた少し未来の八王子を想像しながら願うところである。

ようこそ、全国、世界のみなさん、ますます豊かになる高尾の山々の自然を、生まれ変わる八王子の街を存分にお楽しみください。さあ、八王子をトレッキングしよう！

注

- 1) 「マチ」という発音の言葉を「まち」「街」「町」の3種類に区分して使っている。「まち」は、「まちづくり」「我がまち」という言葉に代表されるように、都市や市の意味で使用し、「街」は、「市街地」「街路」など（部首のぎょうにんべんが示すとおり）人が多く集まり住んでいる所の意味で使用した。「町」については、「町会」「町ぐるみ」など地域を表す言葉と整理した。
- 2) アウトドアシューズのひとつ。アウトドアシューズと一口にいってもその目的・機能は、現在かなり多岐にわたっている。その中でウォーキングやトレッキング・ハイキングなどに一番使われているのが、いわゆるトレッキングシューズ。
- 3) 「信州型木製ガードレール」開発事業は、これまで利用されにくかった間伐材を積極的に活用することにより、里山の保全を目指すとともに、地球温暖化防止、循環型社会構築及び新たな雇用の創出に寄与としている。
- 4) 犬の飼い主がマナーを守りながら、犬を飼育していない人々から隔離されたスペースの中で引き綱をはずし、自由に運動させたり、遊ばせたりすることのできる場所・施設。国営昭和記念公園では平成 15 年 5 月にオープンし、好評を得ている。
- 5) 杉の植林は戦後はじめられ 1970 年頃まで行われた、国家的事業である。成長の遅い広葉樹林を皆伐して針葉樹を植林し、建材用にするためであった。人件費が高騰してからは国際競争力を失い、植林地は放置されるようになり、間伐の問題も抱えている。国もようやく 2001 年に森林・林業基本法を改正し、人工林への広葉樹導入による混交林化や複層状態への誘導など森林構成の多様化に取り組んでいる。
- 6) 全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域

経済の活性化を図ることを目的に、平成 16 年度から新しく創設された国土交通省の制度で、市町村が作成した都市再生整備計画に基づき実施される事業の費用に充当するための交付金。

参考文献

- ・ 国土交通省
(<http://www.mlit.go.jp/index.html>) のサイトより
- ・ 長野県
(<http://www.pref.nagano.jp/doboku/iji/moku.htm>) のサイトより
- ・ 国営昭和記念公園
(<http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/>) のサイトより
- ・ 「森の未来 - 国際社会の一員として、日本人と日本企業の果たすべき役割 by C. W. ニコル」パタゴニア late fall 2004 カタログ
- ・ (株)ハマダテクニカル
(<http://www.campus.ne.jp/~hamada/index.html>) のサイトより
- ・ 美容コム
(<http://www.neteseven.com/biyou2/sugi/>) のサイトより
- ・ (有)ノースウェブ
(<http://www.neteseven.com/biyou2/sugi/>) のサイトより
- ・ ナイキ・ジャパン
(<http://www.nike.jp/acg/index2.html>) のサイトより

(くま つよし・財務部財政課主査)